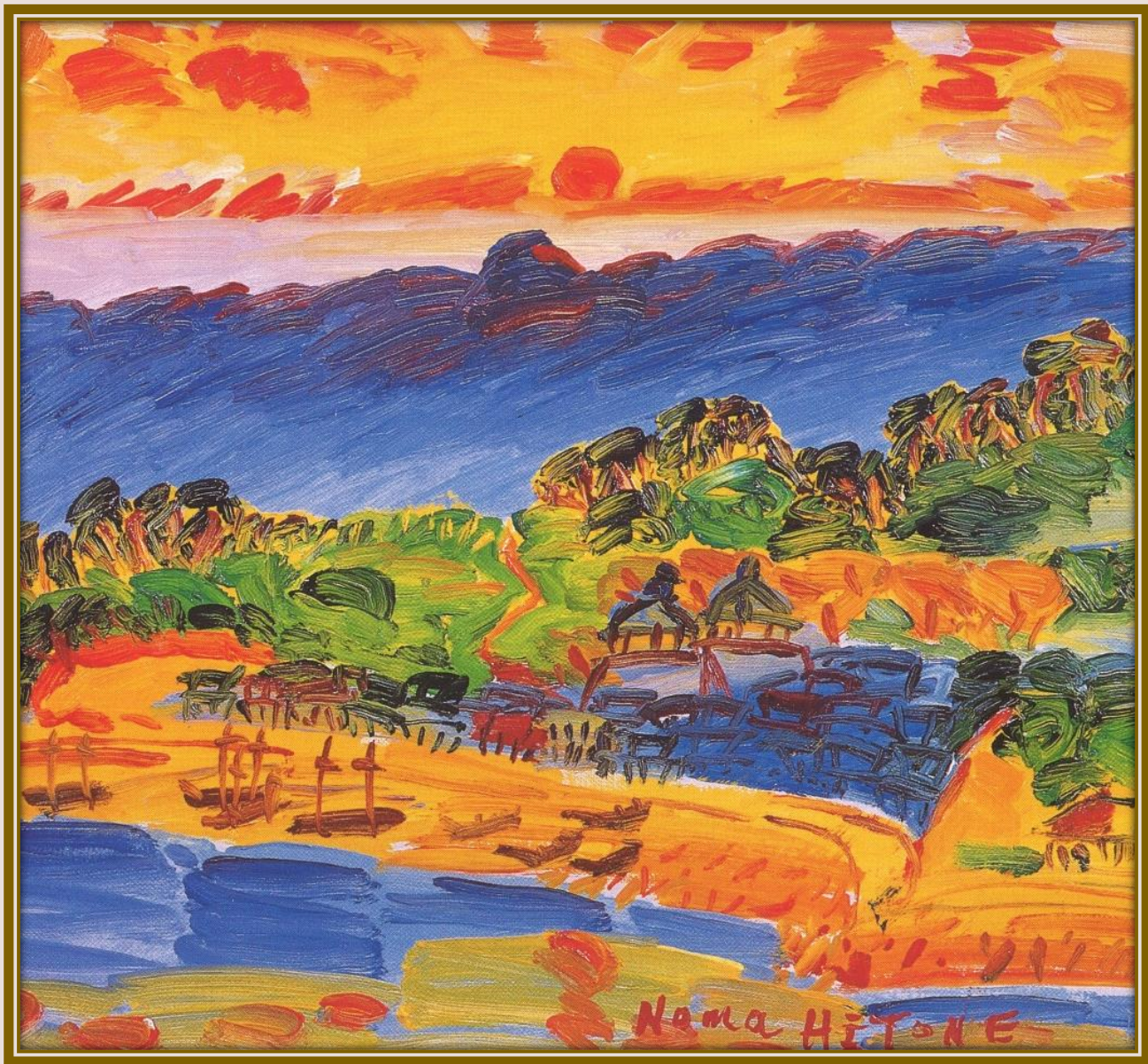


館蔵品展

仁根が見た風景



《瀬戸内海 稜名日の出》制作年不詳

～ 瀬戸の今昔 ～

2023.7.29(土) ～ 10.9(月・祝)

野間仁根



バラのミュージアム

(今治市吉海郷土文化センター)



開館時間 / 9:00～17:00(入場は16:30まで)
休館日 / 月曜日(祝日の場合は直近の平日)
入館料 / 一般310円・学生160円
高校生以下または18歳未満無料
※大人団体(20名以上)250円
※65歳以上の方250円
※障害者手帳をお持ちの方及び
その介助者1名は無料



公式HP



《日内の鼻(仲渡島眺望)》1967年

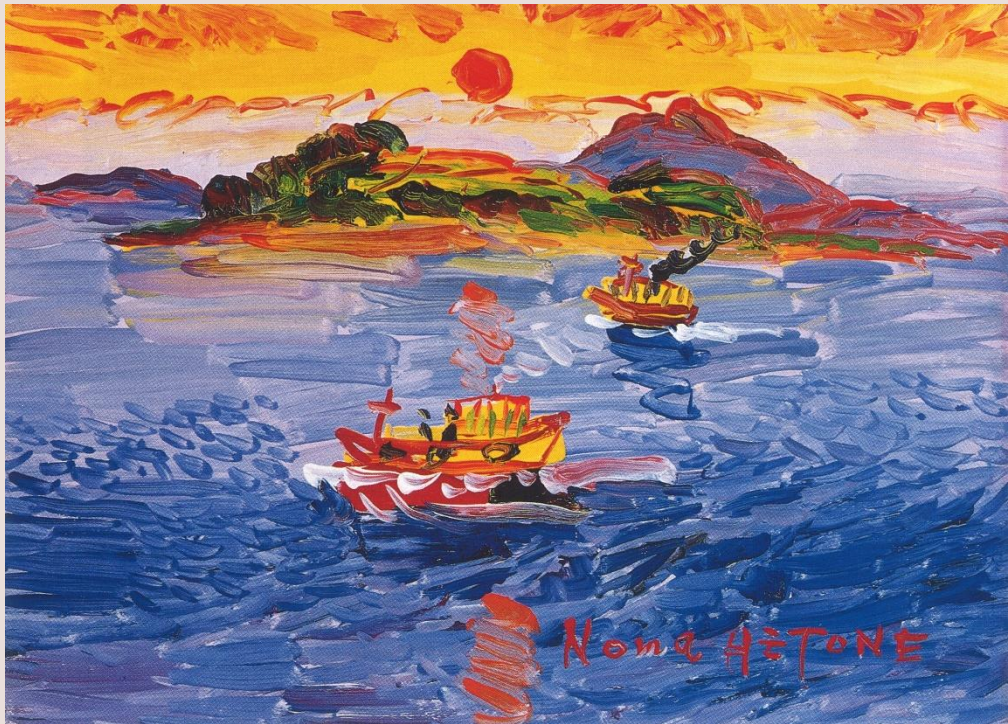


野間仁根が描いた瀬戸内海の風景画を展示いたします。

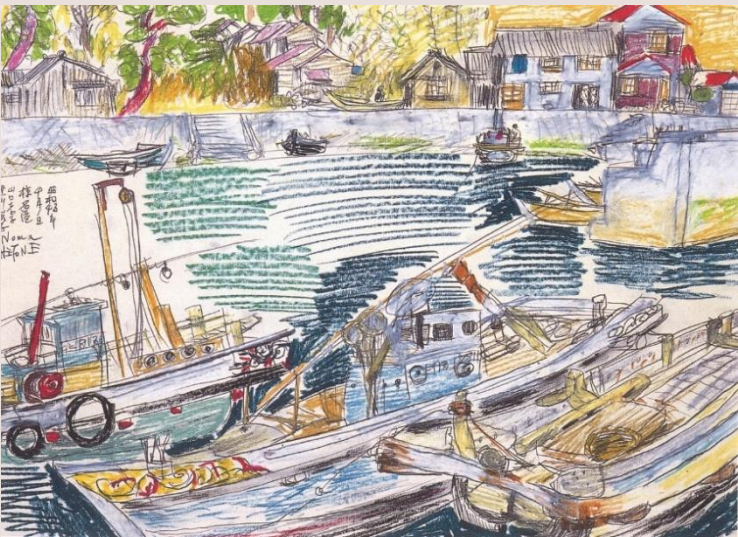
仁根は、瀬戸内海に浮かぶ大島の越智郡津倉村(現今治市吉海町)に生まれ、幼い頃から瀬戸内海の美しい風景に囲まれて育ちました。画家として東京で活躍していた仁根ですが、第二次世界大戦時には故郷・大島に疎開し、8年間過ごしました。その間、釣具と画材一式をもって島中を歩き回り、趣味の釣りと写生に明け暮れる日々を送りました。

晩年、その写生をもとに東京のアトリエで瀬戸内海の風景を描いた作品をいくつも生み出しています。

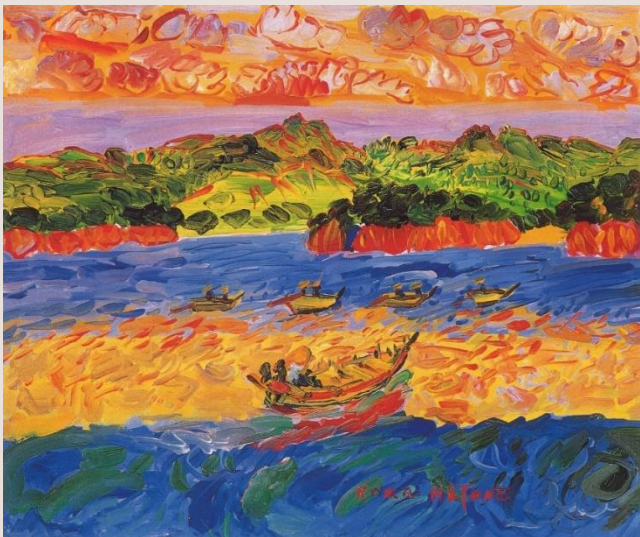
描かれた場所を訪れると、当時仁根が見ていた風景の面影を見ることができます。風景画とともに現在の風景写真も展示いたしますので、この機会に仁根が見た風景の移り変わりを是非ご覧ください。



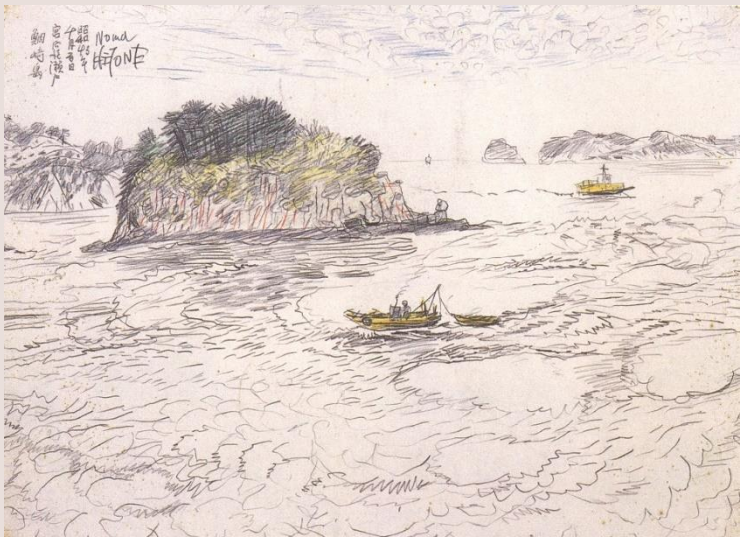
《瀬戸内海 日の出》制作年不詳



《棕名港》1968年



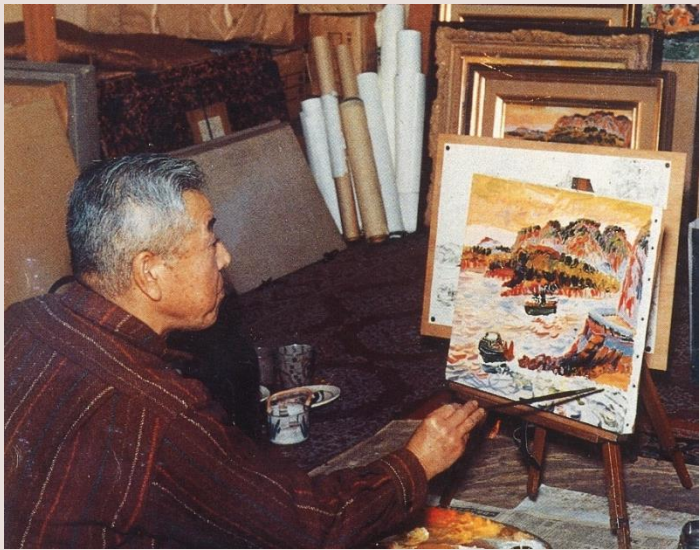
《瀬戸内海 能島附近》制作年不詳



《宮窪瀬戸(鯛崎島)》1968年

野間 仁根

Noma Hitone (1901 - 1979)



◆ 略歴 ◆

- 1901年 2月5日越智郡津倉村(現今治市吉海町福田)に生まれる。
- 1919年 伯父を頼り、母と上京。
- 1920年 川端画学校で学び、東京美術学校(現東京芸術大学)に入学。
- 1924年 第11回二科展で「ランプのある静物」が初入選。
- 1925年 東京美術学校を卒業。
- 1928年 第15回二科展で「夜の床」が樗牛賞受賞。
- 1929年 第16回二科展で「ぜ・ふうるむうん」が二科賞受賞。
- 1931年 佐藤春夫作「むさしの少女」に挿絵を描く。
- 1932年 津倉村に於いて志那と結婚。
- 1933年 二科会会員に推挙される。
- 1944年 郷里(津倉村)に疎開。軍の命令で二科会解散。
- 1945年 二科会が再建され、入会。
- 1955年 二科会脱退。同年、鈴木信太郎らと一陽会を結成。その後、個展や小規模なグループ展を開催。
- 1979年 12月30日、78歳で逝去。吉海町の福蔵寺に眠る。

◆ アクセス ◆

- 愛媛県側から**
- [自動車] しまなみ海道大島南ICから約10分
- [バス] 松山市駅／今治駅より
大三島行き高速バスにて
「吉海支所」下車、バス停より
徒歩15分
- 広島県側から**
- [自動車] しまなみ海道大島北ICから約10分
- [バス] 広島バスセンター／福山駅前より
しまなみライナーにて大島BS下車、
島内路線バスに乗換
「幸(さいわい)」下車、
バス停より徒歩10分